

●新年あけましておめでとうございます

地域のみなさまにおかれましては、日頃より那覇市・南風原町ごみ処理施設事務組合の行う事務事業に対しましてご理解とご協力をいただきまして心より感謝申し上げます。

おかげさまで、平成15年2月に着工しました新ごみ処理施設建設工事も、平成18年4月の完成に向けて順調に進捗しております。

また、地域のみなさまとの話し合いにより進めております還元施設建設事業につきましても、昨年末に基本・実施設計を発注しておりますので今後、引き続き地域のみなさまと話し合いを持ち、地域の望む還元施設として基本・実施設計のとりまとめを行い、平成18年4月の完成を目指し事業を進めてまいります。

さらに、平成19年4月の供用開始に向けて事業を進めております新最終処分場建設事業につきましても、昨年の10月に廃棄物埋立護岸工事に着手いたしまして順調に工事を進めている状況でございます。

このように当組合におきましては、3大重要事業を進めているわけですが、それぞれの事業を進めるにあたりましては、今後も地域住民のみなさまのご理解を得ながら引き続き安全な工事を行って参りますのでご協力の程よろしくお願いいたします。

那覇市・南風原町ごみ処理施設事務組合
管理者 翁長雄志

●新最終処分場の護岸工事始まる!

那覇市・南風原町ごみ処理施設事務組合が那覇市港町(新港ふ頭地区)で進めている新最終処分場建設の最初の工事となる護岸基礎工事が昨年10月に着手されました。

今後、地震対策のための地盤改良工事を終えて、護岸工事をすることになります。

右の写真にあるようにまだ海中での基礎工事ですが、今年の秋頃には海上に顔を出した護岸が見られるのではないのでしょうか。



●水処理施設建設が新しい事業として国に認められる。

平成17年度新最終処分場の水処理施設建設の予算が那覇市・南風原町ごみ処理施設事務組合の事業として国に認められました。これにより護岸工事と足並みを揃え、平成18年度完成を目指して本格的に始まることとなりました。

●地域のいいところ見つけた

今回は南風原町大名区を紹介します。

区長：宜志富 清/人口954人/世帯数308戸
(平成15年度統計はえばる)

本島南部、那覇港に注ぐ国場川支流安里又川上流域に位置する。はじめは南風原村と那覇、宮城の各一部であったが、昭和26年(1951)に分離し南風原村「大名」となった。屋取を起源とする字であり、集落のはじめはヒジガーのニー(肘川の根)とお墓の前と呼ばれる地に形成され、その後広い山野を開拓して農業を営み、首里の市場へ出荷していた。昭和55年からは南風原町の字となっている。

(資料：2003南風原町勢要覧・角川日本地名大辞典47沖縄編)

摩文仁家の墓(県指定文化財)



尚質王の第二子尚弘篤毅(摩文仁家の祖)の墓として17世紀に造られました。墓室入口が広く、天井を木造の手法を用いて平天井にしており、この形式の墓は県内でも他にありません。

ヒージャーガー(史跡)



井の側にある石碑によると、井の前の道路が雨天時に往来が難渋するので1769年に改修し、樋川を築かせたという。また、王妃が久高島に向かう途中休憩して水を求めたところ、美味の湧水があったのでこれを賞賛して碑を建てさせたという伝承もある。戦前までは周辺住民の大切な生活用水だったが、現在はあまり利用されなくなった。それでも、旧9月9日のウマチーの後には、区民全員で御願をする心のよりどころになっている。

